

目 次

1. まえがき	1
2. 結果の分析	
基礎・共通および資格関係	2
音楽学部	4
人文学部	7
人間発達学部	9
グループ平均一覧	15
3. 学生による授業評価アンケートの調査結果及び教員によるコメント	16
4. 資料	160

まえがき

後期のアンケート結果をご報告いたします。先生方には、アンケート結果に対する意見および改善方法などを記したリフレクション・ペーパーを作成いただき、ありがとうございました。

アンケートは前期と同じ質問項目で行い、出席状況に対する自己評価の高い学生と低い学生別の集計や6種類の「身についた力」に対する選択人数の集計も前期と同じように行いました。また、前期もそうでしたが、自由記述の件数が以前に比べて増えているように思われます。これらの結果から、授業に対する学生の評価を具体的に知り、授業目標の達成度を確認していただければと思います。また、例年通り、FD委員会において学科別などの集計や分析を行いました。合わせて参考にさせていただければ幸いです。

本委員会は、FD活動の一環として、2009年以來の7年間に9回の「学生による授業評価アンケート」を実施し、結果報告書を発行してきました。ただ、主な目的は、集計結果や学生の記述を参考資料として提供し、各教員に授業改善を促すことでした。学科別の分析に基づく提案はしてきましたが、組織的な改善を主導したことはありません。しかし、FD活動をさらに進めるには、データの提供や改善方向の提案だけでなく、改善策の実行や効果の検証にも踏み込む必要があると思われまゝす。そのためにも、教職員の皆様には、より一層のご支持、ご協力をお願いいたします。

2016年2月24日

相愛大学FD委員会

江草浩幸

中村圭爾

赤石敏夫

黒坂俊昭

呉谷充利

庄條愛子

藤永慎一

吉田信幸

染川章文

谷川由紀

田尻有紀

授業評価アンケート結果の分析（基礎・共通および資格関係）

1. 評価の特徴

昨年度前後期と今年度前後期の各質問項目に対する平均評定値を科目群別に図1と図2に示す。ただし、図中の質問15は昨年度の質問14に当たる。

【基礎・共通科目】 前期の報告でも述べた、質問3（時間外学習の有無）の評価が極端に低い、質問5～10（時間厳守、学習目標の提示、質問への対応、学生への注意、授業内容の提示方法の有効性、授業の容量やスピードの適切さ）の評価が比較的高いという昨年来の傾向は、今回も変わっていない。また、同様な傾向は2011～2013年度のアンケートにおける類似の項目においても確認されている。このうち、質問3に関しては、よほど抜本的な授業形態の変更がなされない限り、評価の向上は望めないであろう。ただ、質問5～10の結果に関しては、非常勤講師を含めた本学教員の努力の賜物と評価したい。

昨年度は質問2、6、9～15の8項目において後期の評価が前期を上回ったことから、今年度前期の報告では、時期によって学生の授業に対する見方が変化する可能性を指摘した。しかし、今回の結果においては、質問2では後期の方が評価が低く、質問6、9～14ではほとんど差が見られない。また、昨年度は差がなかった質問1、3でも後期の方が評価が低い。このように前期と後期の差異が昨年度と今年度で一致しないので、先に述べた指摘は的外れだったと言わざるをえない。

【資格関係科目】 資格科目に対する評価は全般的に基礎・共通科目より高いが、項目間の評価の高低に関しては基礎・共通科目と同様の傾向が続いている。また、前期と比べると、全ての項目で、差がないか、評価が上がっている。昨年度は前期と比べて評価が下がった質問1～3、6でも、そうになっている。また、昨年度は後期に評価が上がった質問9と10では、今年度も後期の方が評価が高い。資格科目に関しても、基礎・共通科目の場合と同様、時期による評価の差異は一貫したものではないと言えよう。

2. 「身についた力」の特徴

前期同様、「身についた力」を選択させる質問項目について、講義科目、演習・実技科目（外国語、情報処理演習、スポーツ）、資格科目（教職、司書）に分けて、回答傾向を前期の結果と比較しながら概観してみる。そのために、全選択数に対する各選択肢の選択数の比率を図3に示す。

前期と同じく、講義科目と資格科目では選択肢②（考える力）の選択率が他の選択肢に比べて特に高く、演習・実技科目では⑥（コミュニケーション力）の選択率が他の2領域に比べて明らかに高い。これらの傾向については、前期の報告でも述べたように、授業形態の異同で説明できよう。

一方、前期と異なり、選択肢②（考える力）の選択率は演習・実技科目でも他の選択肢より明らかに高く、他の2領域と差が無くなっている。また、前期と逆に、⑤（プレゼンテーション力）の選択率は講義科目や資格科目の方が演習・実技科目より高い。もちろん科目構成が前期とは異なるが、科目名だけではこの変動の原因を推測することはできない。各科目の授業内容・方法にまで踏み込んだ分析が必要であろう。

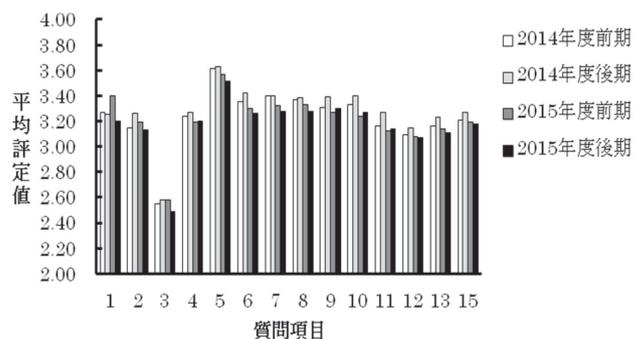


図1 基礎・共通科目

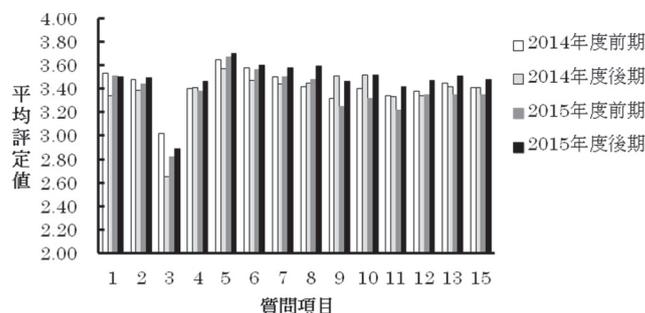


図2 資格科目

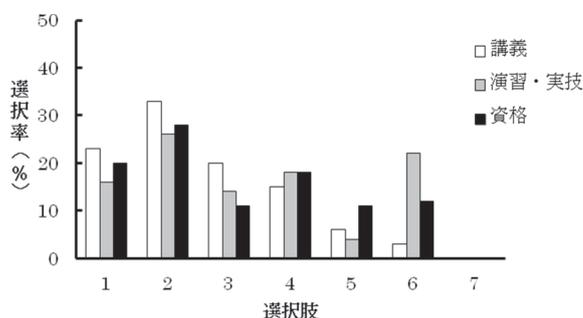


図3 身についた力

(文責 江草 浩幸)

授業評価アンケート結果の分析（音楽学部）

I. はじめに

「学生による授業評価アンケート」は、学生から得られたデータをそれぞれの授業科目担当者にフィード・バックすることによって、担当する授業の改善に役立てられている。そして評価の低かった項目に対して行なわれた改善努力の成果は、同一の質問項目に対する次期の評価との比較に確認することができる。今回の授業評価アンケートの結果を前回（2015年度前期）調査と比較し、考察してみたいと思う。

II. 前回と今回の授業評価アンケートの調査結果の比較

本来ならば、授業科目ごとに、また調査人数等を揃えて比較しなければならないところであるが、諸般の事情からグループ平均値の比較に留めることとする。

① 講義系科目

		音楽学科		音楽マネジメント学科	
		2015年度前期	2015年度後期	2015年度前期	2015年度後期
問 1	授業への出席	3.46	↓ 3.36	3.39	↓ 3.35
問 2	学習目標の理解	3.50	→ 3.50	3.35	↑ 3.60
問 3	授業時間外学習	2.65	↑ 2.79	2.79	↑ 3.02
問 4	教員の話し方	3.49	↑ 3.52	3.37	↑ 3.43
問 5	教員の授業時間厳守	3.74	↓ 3.69	3.71	↓ 3.67
問 6	学習目標の提示	3.59	↓ 3.58	3.49	↑ 3.59
問 7	質問への対応	3.51	↑ 3.53	3.51	↑ 3.59
問 8	授業中の適切な注意	3.37	↑ 3.45	3.31	↑ 3.39
問 9	教材の効果的利用	3.68	↓ 3.67	3.59	↓ 3.52
問 10	授業内容の量・速さ	3.52	↑ 3.61	3.37	↓ 3.34
問 11	内容理解のしやすさ	3.35	↑ 3.48	3.23	↑ 3.35
問 12	問題意識の深まり	3.56	↓ 3.48	3.31	↑ 3.38
問 13	新しい知識等の習得	3.50	↓ 3.49	3.36	↑ 3.46
問 15	授業の満足度	3.45	↑ 3.60	3.40	↑ 3.58
平均	—	3.45	↑ 3.48	3.37	↑ 3.45

この表において先ず注目されることとして、音楽マネジメント学科の各項目の平均値の上昇が顕著であることが挙げられる。確かに（問 1）（問 5）（問 9）（問 10）は減少しているが、その減少幅は非常に小さく、各問の内容は殆どが授業内容に係わる項目でない。それに対して、その他の項目及び平均値の上昇は著しく、とりわけ（問 15）「授業の満足度」が 0.18 ポイント上昇している点は特筆される。音楽学科では、（問 1）（問 5）（問 6）（問 9）（問 12）（問 13）が数値を下げ、（問 3）（問 4）（問 7）（問 8）（問 10）（問 11）（問 15）及び平均値が上昇している。ここでも音楽マネジメント学科同様、減少の幅は小さく上昇の幅が大きいため、平均値が上昇する結果となっている。特に（問 15）の値の上昇は授業を行なう側・受ける側の双方にとって喜ばしいことである。ただ（問 12）「問題意識の深まり」と（問 13）「新しい知識等の習得」に関して数値が下がっている点には注意を払わなければならない。

② レッスン科目

		音楽 学科	音楽 マネジ メント 学科	副科	声楽	ピアノ	創作 演奏	管弦打 楽器
問 1	授業への 出席	3.38 (3.59)	3.33 (3.75)	3.38 (3.31)	3.67 (3.47)	4.00 (3.78)	3.67 (3.00)	3.69 (3.83)
問 2	学生の 授業準備	3.00 (3.05)	3.22 (2.71)	3.26 (3.27)	3.67 (3.58)	3.50 (3.56)	3.28 (3.20)	3.61 (3.48)
問 3	授業 回数	3.80 (3.73)	3.67 (3.86)	3.86 (3.83)	4.00 (3.95)	4.00 (3.92)	3.33 (4.00)	3.89 (3.85)
問 4	教員の 話し方	3.73 (3.67)	3.67 (3.61)	3.86 (3.88)	4.00 (3.89)	4.00 (3.92)	3.72 (4.00)	4.00 (3.96)
問 5	教員への 質問	3.11 (2.95)	3.00 (3.00)	3.35 (3.48)	3.67 (3.79)	3.38 (3.37)	3.56 (3.80)	3.70 (3.74)
問 6	課題の 適切さ	3.57 (3.54)	3.44 (3.61)	3.86 (3.83)	3.83 (3.84)	4.00 (3.94)	3.72 (4.00)	3.93 (3.93)
問 7	意欲の 向上	3.53 (3.55)	3.56 (3.46)	3.86 (3.82)	4.00 (3.89)	3.88 (3.86)	3.78 (3.80)	4.00 (3.96)
平均	—	3.48 (3.44)	3.41 (3.43)	3.63 (3.63)	3.83 (3.77)	3.82 (3.76)	3.58 (3.69)	3.83 (3.82)

* 数値の下段（ ）内は、音楽学科及び音楽マネジメント学科については 2015 年度前期、その他のグループは 2014 年度後期の数値

* 副科は各学生が専門とする実技以外の実技レッスン科目

この表からは、前調査の数値から概ね上昇している傾向が見られる。但し、この比較にあたっては、サンプル数が少なく、さらに個人レッスンを基本としていることから生じる事情もあり、大いに参考にするわけにはいかない。次回からの調査では工夫が求められる。

Ⅲ. まとめ

音楽学部においては、今回の調査結果は前回調査に比して数値的にかなり上昇していると見ることができる。それは、今回だけの結果から結論付けることはできないが、度重なる同種の「学生による授業評価」によって教員が評価項目に関して真摯に受け止め、数値の上昇を意識しながら努力した結果であろうと思われる。ここに学生による授業評価の実施の効果を評価したい。ただ一方で、授業時間外の学習については、講義科目の（問 3）、レッスン科目の（問 2）の値が他項目に比べて低い値となっており、それへの配慮に一層努めなければならない。

またこのような学生による授業評価は定期的に繰り返すことによって授業への意識が持続されるが、同時に新しい項目による評価も加え、授業の改善により一層邁進していくことが望まれる。或いは現在でも保持しながら利用していない「自由記述」についてより一層の記述を促し、個別的な対応によって授業改善に役立つ方法もある。

いずれにしてもこれまでの「学生による授業評価」の成果を讃えつつ、さらなる授業改善に向けて駆け上がっていく段階に来ていると思われる。

（文責 黒坂 俊昭）

授業評価アンケート結果の分析（人文学部）

【講評】

平成 27 年度におこなった前期の授業評価アンケート結果から、人文学部の問題点として特に顕著になったのは、問 3 の授業外予習・復習であり、他の質問項目に対してその数値は極端に低く、学生の授業外での勉学の取り組みが極めて貧弱である点である。「この結果を参考にすれば、今後の一対策としてある程度義務的に授業外での学生の取り組みをそれぞれの科目において課すことも視野にいれることが必要かも知れない。」と本年度前期授業評価アンケート結果を踏まえて述べた。この点について、後期のアンケートは問 3 において前期をさらに下回る値を示している（図 1）。

これに対し、個々の科目において問 3 の数値が高いものとして、内容的に発表形式の演習科目を挙げることができ、こうした点を一つの手掛かりにしながら全学部的な取り組みが一層求められる。

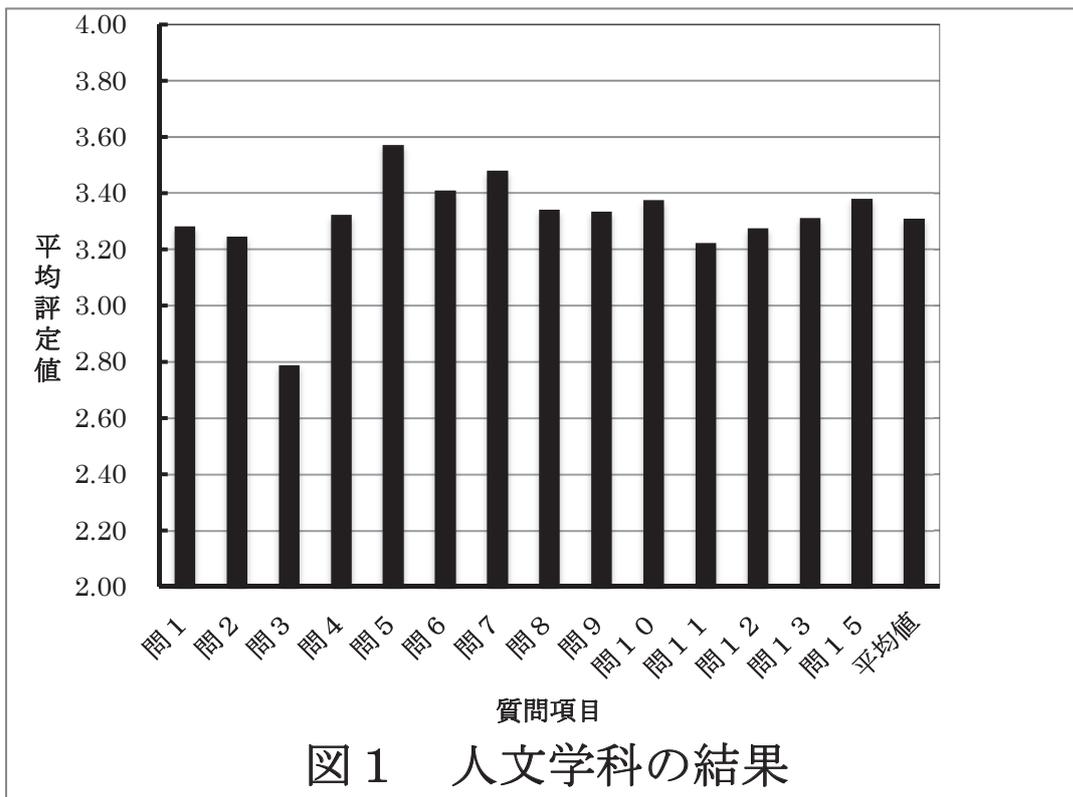
このアンケート結果に関連して、問 12「受講による問題意識や関心の深まり」と問 13「受講習得の成果」がこの問 3 につづいて低い値となっていることを前期のアンケート結果において指摘し、それらの結果が、問 3 に見られる学業への消極性に遠因していることを推察して述べた。アンケート結果が表わすこのグラフパターンは同様なものになっている。

大学における学びにおけるもっとも重要なことがら問 3（授業外の学習）、問 11（授業の理解）、問 12（テーマの発展的な関心）、問 13（新たな視野、考え方、知識）に問われている。この結果が前期とほぼ同様な、正確に言えば一部より低い値を示していることは残念であり、人文学部のカリキュラム全体の再検討が問われているように思われる。

それからもう一点指摘されなければならないことは、問 12、問 13 の値に比して、問 15（満足度）が高いことである。このデータからいえば、満足度は学習の内容と必ずしも相関するものではないと考えられる。

他のグループとして、もっとも高い数値を示しているのが留学生である。問 1 から問 15（問 14 を除く）にわたって高水準のアンケート結果になっている。数値そのものの信憑性を問うにしても、その根拠をまったく欠いたものではないと思われ、留学生は本学において真剣に勉強しているといえる。

前期と結果の数値の変化を挙げておきたい。問③ 2.88→2.79（低下） 問④ 3.33→3.22（低下） 問⑤ 3.25→3.27（やや向上） 問⑥ 3.28→3.31（やや向上） 問⑦ 3.36→3.38（やや向上）



- 質問1 あなたはこの授業に休まず出席しましたか。
- 質問2 あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか。
- 質問3 あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか。
- 質問4 担当教員の話し方はわかりやすかったですか。
- 質問5 担当教員は授業時間を守っていましたか。
- 質問6 担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか。
- 質問7 担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか。
- 質問8 担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか。
- 質問9 板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか。
- 質問10 この授業の内容の量やスピードは適切でしたか。
- 質問11 この授業の内容は理解しやすかったですか。
- 質問12 この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか。
- 質問13 この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか。
- 質問15 この授業を受講して満足できましたか。

(文責 呉谷 充利)

授業評価アンケート結果の分析（人間発達学部）

1. 評価の特徴

人間発達学部は資格に関連する授業が多く、授業評価アンケートの対象となった授業の多くも資格取得に関連したものである。また、実験・実習および演習が多いのも本学部の特徴である。

両学科で取得可能な資格には一定以上に出席が必要なことから、問 1「休まずに出席したか」は高い値をしめした。問 2「学習目標の理解」は両学科とも全学平均とほぼ同じ値を示した。この評価点は 2015 年前期の結果とほぼ同じであることから、既に大学での半年間の学びを経験したにも拘らず、何のために講義を受けているか曖昧なまま受講している学生がいることが推察される。また、問 3「予習・復習、時間外学習」の評価点は 2014 年度および 2015 年度前期に続いて低い値にとどまっており、本学部の多くの教員が実施している各講義時間の小テストに対しても、予習や復習をしてまで臨むという体制が全く整っていないことが明らかとなった(表 1 および図 1)。

担当教員の授業に対する姿勢を問う問 4～8 までの項目は、2015 年度前期アンケートと同様に、対象授業によりばらつきが認められた。2014 年度～2015 年度前期と同様に、専任教員に比べて非常勤教員で全体的に低い傾向が認められた(図 2、図 2-2)。さらに、これらの項目に関する自由記述欄の意見では、今回も、学生と日常的な接点の少ない非常勤教員には否定的な記述が多々認められ、指導する側への思いやりに欠ける部分があるのではないかと、少し寂しい気がした。今後は、専任教員が講義の際に 1 回生だけでなく 2～4 回生にも、大学での学びの姿勢や指導者への対応などについても指導する必要があるのではないかと考える。

また、問 6 の教員による学習目標の提示に関しては、子ども発達学科・発達栄養学科のいずれにおいても 2014 年度の調査に続いて全学に比べて低い値を示した。限られた時間内での実験・実習では明確な提示が難しいことも予想されるが、早急に改善できる点であることから、今後は非常勤の先生方も含め講義時間ごとの目標の提示を徹底することで、学生の学習意欲を高めたいと考える。

授業の実施状況や理解に関する問 9～11 までの項目は、全学の平均値と大きな差は認められず、人間発達学部における視覚教材の活用や講義のスピードは、適切であると考えられる(表 1 および図 3)。自由記述欄に「パワーポイントなど、とてもわかりやすい」の意見が挙げられたことから、視覚教材の活用時に先生方が様々な工夫されていることが推察された。授業の理解を問う問 11 については発達栄養学科で低い値であるが、これはすべての学年において後期開講科目がより専門性の高い学習内容となるため、と考えられる。自由記述欄からも「苦勞し

たが、必要なスキルが身についた」「内容が濃く、自分のためになった」などの修学の姿勢を窺うことができた。

授業内容の理解および受講による学習効果を問う問 12、13 および 15 の項目においても、全学の平均値とほぼ同じ傾向が認められた(表 1 および図 4)。授業評価アンケート対象科目の多くが資格取得に関連することから、問 12「受講講座のテーマに関する問題意識や関心の高まり」、問 13「新しい知識・考え方・技能の習得」については、特に発達栄養学科において評価点をさらに高める努力が必要と考えられる。

2. 自由記述の特徴

自由記述欄では「楽しい」「良かった」という意見が最も多かったが、後期開講科目ということもあり、学びに対して前向きな姿勢を記載している学生が多く見られた。非常勤の先生方への記載には、講義で利用したプリントへの質問なども多く見られたことから、非常勤と学生をつなぐ手段を講じる必要性を感じた。

3. 身についた力の特徴

本授業評価アンケートから問 14 において 6 つの「身についた力」を自己評価する項目が設けられた。人間発達学部における授業は「講義」「実験・実習・演習」などに大別できることから、2014 年度前期の評価に引き続き、それぞれについて学生の自己評価を比較した。その結果、今回のアンケートにおいても「実験・実習・演習」では調べる力、主体的に取り組む力、プレゼンテーション力およびコミュニケーション力のいずれも高い値を示した。これらのことから、学生の能動的学びのため「講義」においても様々な工夫が必要であることが示唆された。

表 1 人間発達学部および全学平均の推定値

		子ども 発達 学科	発達 栄養 学科	全学 平均
問 1	あなたはこの授業に休まず出席しましたか	3.32	3.49	3.40
問 2	あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか	3.42	3.23	3.42
問 3	あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか	2.97	2.76	2.90
問 4	担当教員の話し方はわかりやすかったですか	3.46	3.15	3.42
問 5	担当教員は授業時間を守っていましたか	3.55	3.53	3.63
問 6	担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか	3.47	3.31	3.50
問 7	担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか	3.49	3.32	3.51
問 8	担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか	3.43	3.27	3.44
問 9	板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか	3.49	3.38	3.49
問 1 0	この授業の内容の量やスピードは適切でしたか	3.44	3.25	3.45
問 1 1	この授業の内容は理解しやすかったですか	3.42	3.13	3.37
問 1 2	この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか	3.43	3.14	3.37
問 1 3	この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか	3.47	3.19	3.42
問 1 5	この授業を受講して満足できましたか	3.57	3.25	3.48
平均値		3.42	3.24	3.41

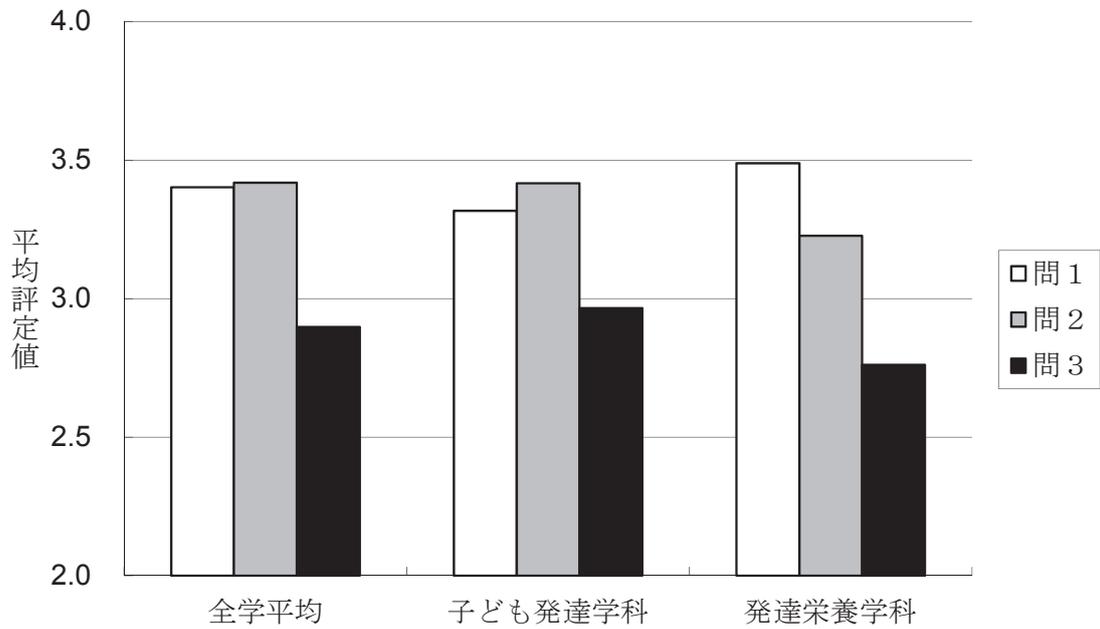


図1 全学および人間発達学部の間1～3の平均評定値

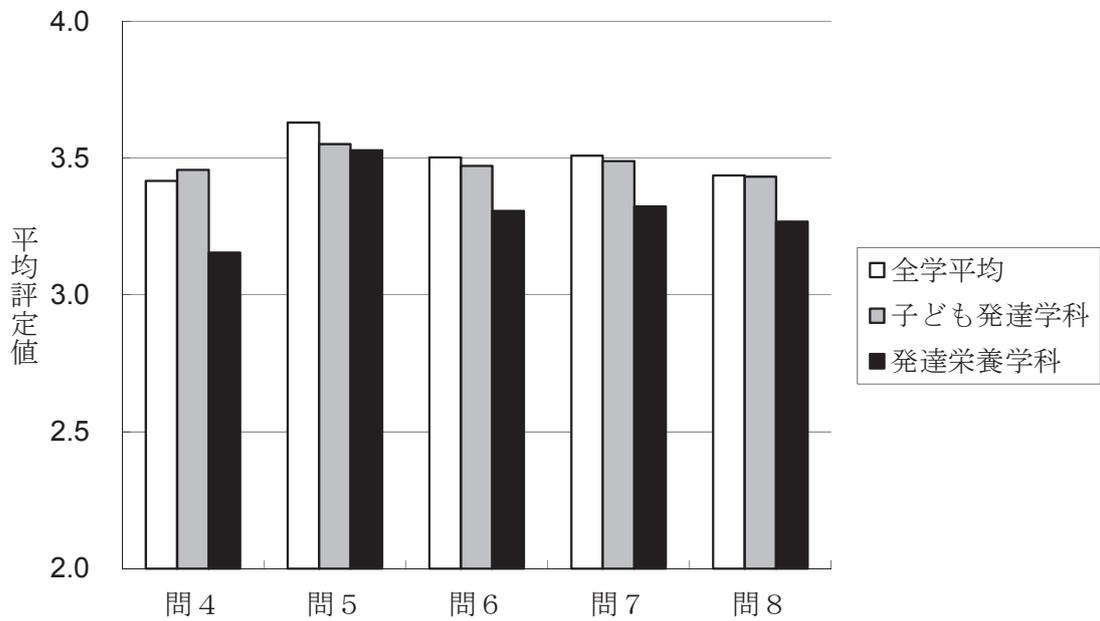


図2 全学および人間発達学部の間4～8の平均評定値

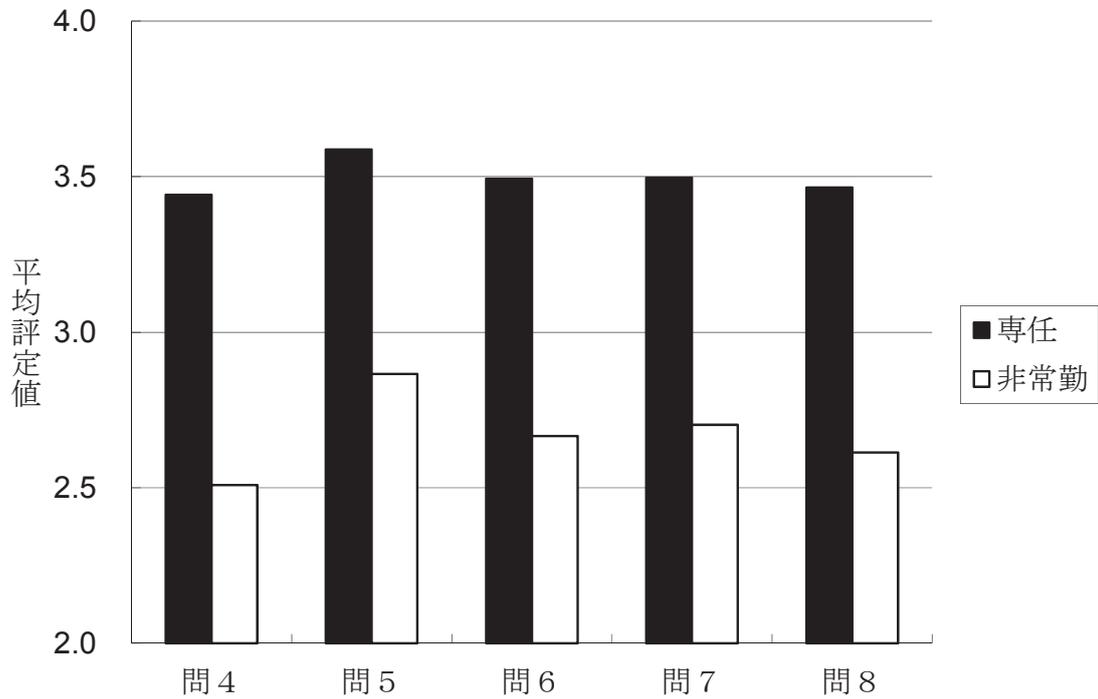


図 2-2 人間発達学部専任教員および非常勤教員での問 4～8 の平均評定値

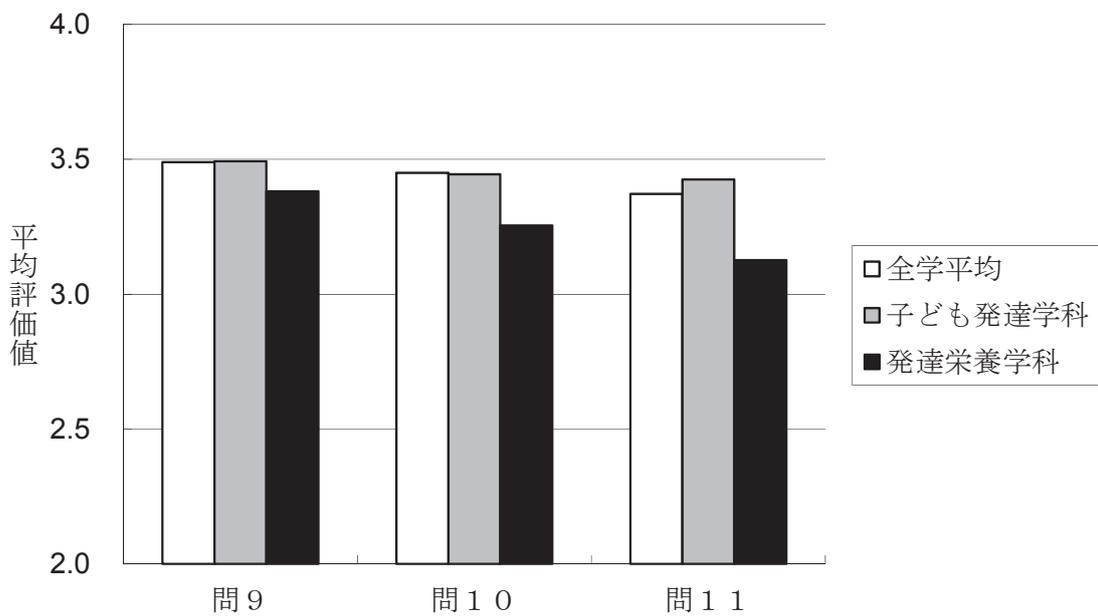


図 3 全学および人間発達学部の問 9～11 の平均評定値

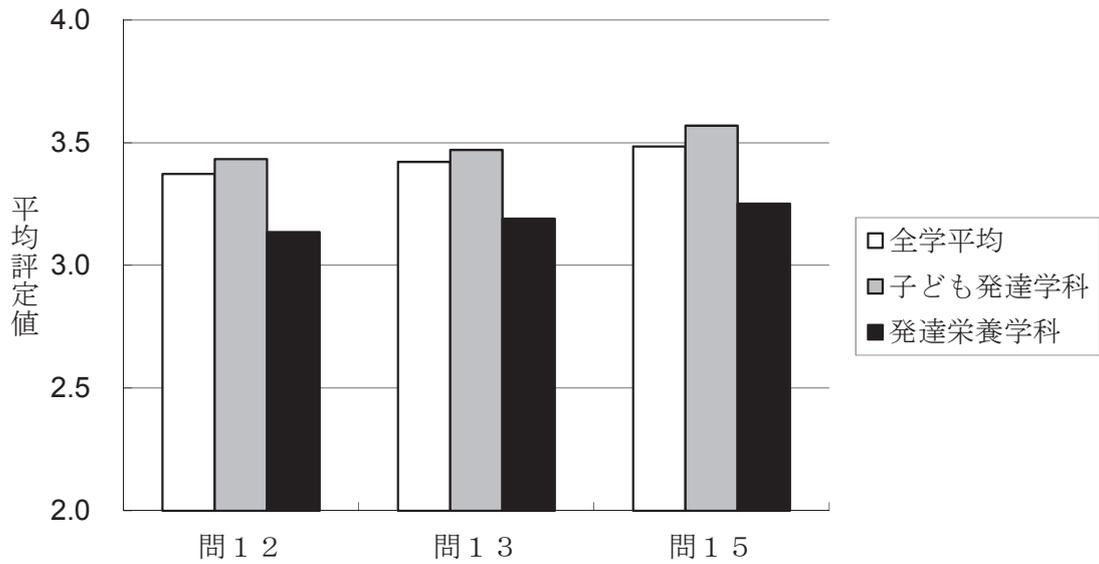


図4 全学および人間発達学部の間12、13および15の平均評定値

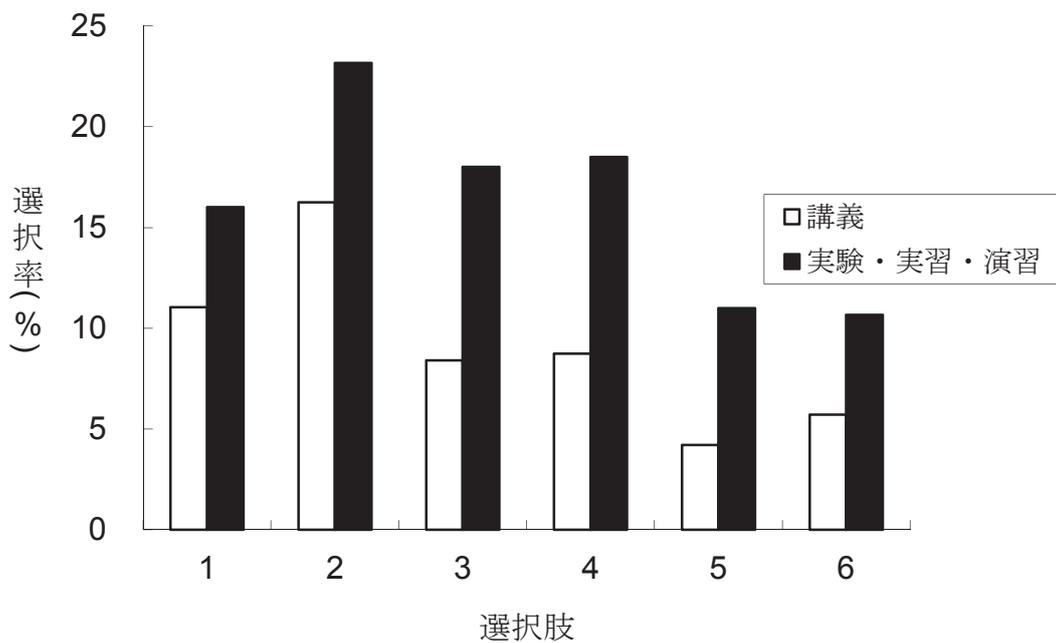


図5 人間発達学部の間14の選択率

※選択肢1：問題・課題を見つける力、2：考える力、3：調べる力
 4：主体的に取り組む力、5：プレゼンテーション力、6：コミュニケーション力

(文責 庄條 愛子)

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧

	基礎・共通	資格	留学生	音楽学科	音楽マネジメント学科	人文学科	子ども発達学科	発達栄養学科
問1	3.20	3.50	3.71	3.36	3.35	3.28	3.32	3.49
問2	3.13	3.49	3.73	3.50	3.60	3.25	3.42	3.23
問3	2.49	2.89	3.48	2.79	3.02	2.79	2.97	2.76
問4	3.20	3.46	3.79	3.52	3.43	3.32	3.46	3.15
問5	3.51	3.70	3.81	3.69	3.67	3.57	3.55	3.53
問6	3.26	3.60	3.81	3.58	3.59	3.41	3.47	3.31
問7	3.28	3.58	3.81	3.53	3.59	3.48	3.49	3.32
問8	3.28	3.59	3.74	3.45	3.39	3.34	3.43	3.27
問9	3.30	3.46	3.75	3.67	3.52	3.33	3.49	3.38
問10	3.27	3.52	3.79	3.61	3.34	3.37	3.44	3.25
問11	3.14	3.42	3.80	3.48	3.35	3.22	3.42	3.13
問12	3.07	3.47	3.75	3.48	3.38	3.27	3.43	3.14
問13	3.11	3.51	3.83	3.49	3.46	3.31	3.47	3.19
問15	3.18	3.48	3.84	3.60	3.58	3.38	3.57	3.25
平均値	3.17	3.48	3.76	3.48	3.45	3.31	3.42	3.24